

さいたま
見沼

よみさんぽ

2023

Vol. 44

まち歩き 12

歴史と文化を継ぐまちなみづくり
—地域の魅力発見の旅へ—



記録写真家 柿内未央

歴史と文化を継ぐまちなみづく り—地域の魅力発見の旅へ—

まち歩きシリーズ、「日光御成街道」はいよいよ岩槻に入ります。徳川家康を祀る日光東照宮を参詣するため、将軍専用の街道とされた日光御成道。1617年に2代将軍秀忠が江戸を出発して日光に向かったのが最初の通行と言われています。3代将軍家光の時代まで、将軍社参は日光御成道ばかりではありませんでしたが、次第に将軍通行にふさわしい道として整備されていきました。いずれの道筋を辿っても必ず岩槻へ入り、通称「岩槻道」と記されているものもあります。

日光御成道の歴史からその魅力に迫る

日光御成道の中で、最大規模の宿場とされたのが岩槻宿です。城下町の周囲は巨大な土塁と堀が取り巻き、十分な警備環境だったことから、岩槻城が将軍社参の際の宿泊にあてられたとも言われています。

4代将軍家綱までは続いていた社参もいずれ途絶えてしまい、65年ぶり(1727年7月)に8代将軍吉宗が社参を復活させました。岩槻城での宿泊や休憩所の修理を幕府の費用で行い、整備のためにあらゆる法令を乱発。午前零時に先頭が、吉宗は午前6時に江戸城を出発し、最後の行列が出たのは午前10時。午後5時に岩槻城に到着しています。現在だと車で約1時間30分、徒歩だと約7時間の道のりです。記録(有徳院殿御実紀)によれば、228,306人、馬は325,900頭に及び、つぎ込んだ費用は140億円とも言われています。この数字からも、規模の大きさがうかがえます。

その後の社参も徹底した準備がなされ、道筋から2～3町以内の藪・林・枝の切り落としや石塔の取り除き、横道から不審者が飛び出して来ないように野道まで締め切るように取り決められたそうで



月岡芳年「徳川十五代記略」
「大猷公の十三回忌綱家公日光社参上図」*

*東京都立中央図書館特別文庫室所蔵 出典：東京都立図書館デジタルアーカイブ (TOKYO アーカイブ)

す。街道沿いの家屋は修繕もなされ、当日は約 18 メートルごとに火事に備えた手桶が置かれたのだとか。しかし、12 代将軍家慶の社参を最後に日光社参は行われず、25 年後（1867 年）に徳川幕府が崩壊。日光御成道は本来の目的を失うこととなりました。

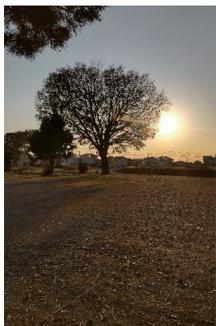
日光御成道の歴史を辿ると、経済や文化の発展に寄与し、今なお語り継がれる大事な役割を担っていたことがわかります。関わった多くの人たちの汗と涙と努力が目に見え、その役目を終えたことに寂しささえ感じさせます。

人形のまちだけでない岩槻の魅力

さて、そんな情緒に浸りながら、実際に岩槻に足を運んでみました。岩槻道に向かって進むと、「加倉」という地名に目が留まります。江戸から東北に向かう街道と交わる場所が加倉と呼ばれ、家康が鷹狩で岩槻を訪れる際には、この加倉に作られた出入口（加倉口）まで、岩槻を与えられた譜代大名が出迎えに来たそうです。城下町を含めた岩槻城の表玄関とも言える場所のようです。

加倉には他にも興味深い話があります。岩槻で語り継がれている「加倉なわての戦い」(1560～65 年頃の出来事と言われている)です。岩槻城に北条軍が来襲し、加倉にて戦いが行われたというもの。兵数の多い北条軍に対し、岩槻側は高低差を利用して敵を引き込み伏兵にて攻撃、みごと北条軍を撃退したという話です。現在も残る馬坂という坂は、馬の背や馬蹄に似ていることから名づけられたようですが、馬も転げ落ちるほどの急坂だったためにそう呼ばれたとも言われています。

坂を超えると琴平神社が見えてきます。鳥居の周辺に昔の面影は残っていませんが、毎年 2 月 10 日に加倉のだるま市が開催され、縁起物としてだるまがたくさん並びます。だるま市が開かれるのは、人形のまち岩槻ならでのこと。これも日光東照宮の造営と深い関わりがあります。当時、岩槻が日光御成道の最初の宿場町だったため、東照宮の造営や修築に携わった工匠の中にはこの土地に住みついた人も多く、人形づくりをする人もいて、その技術を広めたと言われています。岩槻周辺は桐の産地でもあり、原料の桐粉が豊富で、水にも恵まれていたことが人形づくりに適していたようです。後に藩の武士や農家の人々の内職・趣味・兼業などとして受け継がれ、幕末には岩槻藩の専売品に指定されるほど重要な産業になりました。現在も人形のまちとしてにぎわい続ける岩槻を、当時の職人たちはどこかで見てくれているでしょうか。



左：浄国寺から眺める夕日

右：時の鐘を眺めながらしばしタイムスリップ

300年前と変わらない景色を感じつつ

さらに進むと、久伊豆神社や浄国寺があります。このあたりが岩槻宿の入り口。浄国寺から見た夕日はすばらしく、

きっと日光社参の折にも多くの人が目にしたであろうと思うと、感慨深いものがありました。

さらに進むと、城下町を思わせる街並みが見えてきます。街道から脇道に入ると、急に時がとまったような気分に……最初に訪ねたのが「時の鐘」。300年前に城下町に響き渡った鐘の音を今も聴くことができます。朝6時、昼12時、夕方18時の1日3回鐘がつかれます。江戸時代から今日まで変わることなくそこにある鐘の音とともに、しばしタイムスリップしたようでした。

歴史につながる小道を散策して

小道を入ると、いくつものお寺に辿り着きます。落ち葉を踏む音さえ響くような静けさの中で、しばし手を合わせ心を整えます。

さいたま市の保存樹木「クロマツ」にも出会いました。松は古くから神の宿る神聖な木とされ、「神を待つ」という意味や、冬でも緑を保つことから不老長寿の象徴と考えられたり、縁起のいい木とされています。久伊豆神社の片隅にあった、村社と書いてある石塔にも惹かれるものがありました。明治時代に制定された神社社格の1つのです。歴史を辿りながらのまち歩きは、すべ



でのものが物語をもっていて、語りかけてくるように思えてきます。

街道沿いに戻ると、足元に素敵な絵が張り巡らされていました。マンホールも岩槻らしさあふれるデザイン。トランスボックスにも日光道中絵図が彩られ、ラッピング

左：パワフルクロマツ

右：久伊豆神社に残る石塔



装飾されていました。歴史を思い起こさせる発見の連続です。

地域に根づいた暮らしや文化を今に引き継ぐ

街道の当時を描いた絵図を片手に歩きました。それには市宿町・久保宿町・渋江町・田中町が日光御成道の道筋として描かれていましたが、現在の行政地名では失われています。しかし、その中で「渋江」という名前が交差点にも使われていたので調べてみました。渋江町の由来は、台地からの絞り水が低地にたまり、柿渋のような赤い鉄分の沈殿物が見られたことから“シブエ”と名付けられたようです。渋江町を調べるだけでも「渋江鍔金遺跡」などまだまだ歴史のお宝がたくさん出てきます。地名の裏にも歴史あります。

この町並みは、岩槻歴史街道事業として整備されてきました。2016年に出された岩槻歴史街道基本方針のもと、「まちなみづくり」と「みちづくり」を住民等と市の協働で進める事業です。コンセプトは人々が何度も訪れたいくなるようにぎわいの創出を目指すというもの。歴史と文化を市民の手でまちづくりに活かしていく取り組みを進めています。埼玉に長く住みながらも、歴史と共にこうしたまちづくりが進んでいるとは知りませんでした。

歴史を知れば、目に見える景色の1つ1つに重みを感じます。岩槻にはまだまだ歴史の宝がたくさんあります。歴史を知って今を知る、そして今がこれから100年先に語り継がれる歴史をつくっている、そう感じるまち歩きでした。

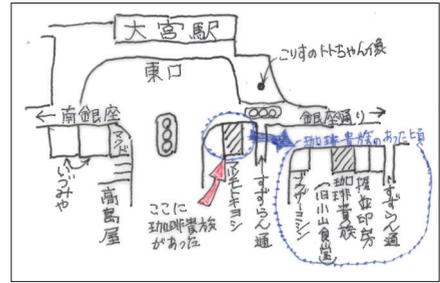
(記 大澤 美紀)

参考)

- ・歴史の道調査報告書第二集 日光御成道：埼玉県教育委員会、1984
- ・岩槻の情報誌 ら・みやび：一般社団法人ひなまちデザイン

本で辿るさいたま 『複合捜査』

並木せつ子



埼玉県警の夜間緊急警備班，通称 NESU は部署や所轄の枠にとらわれない独立した組織で，さいたま市の夜間の治安を守るために発足しました——と言ってもこれは『複合捜査』（堂場瞬一著，集英社，2014）という小説の話。2人1組で繁華街を夜間パトロールし，事件を未然に防ぐのが仕事です。午後8時から午前8時までという昼夜逆転の勤務体制に，はりきっているのは班長の若林だけ。他の刑事たちの不満はつものばかりです。

ある夜，大宮駅東口をパトロール中に，すずらん通り付近で喧嘩騒ぎに遭遇，対処している最中にさいたま新都心で放火という連絡が入りました。続けて常盤，与野本町，東浦和，その夜だけで4件の放火に大量のコカイン所持者。NESU の刑事たちは市内を右往左往させられます。その後も浦和駅前での大乱闘，大宮南銀座や南与野での殺人・死体遺棄事件と続く中で，ネットには埼玉県警を揶揄する書き込みまで。嫌な予感がする，事件はつながっているのか？ 周囲の忠告も不満もお構いなしに，若林のさらなる暴走が始まります。

さいたま市民限定の楽しみは，地名が出てくると「ああ，あそこか」と場所が思い浮かぶこと。若林の行動が頭の中の地図でたどれるくらい描写が詳細なのです。たとえば<二人は南銀座を抜け，高島屋脇の交差点を通り過ぎた。この先は南銀座ではなく，「銀座通り」と呼ばれる地区だ。……すぐに一軒の喫茶店を見つけて入った>。この喫茶店は現在のマツモトキヨシの所にあった珈琲貴族でしょう。

浦和の事件でも<駅前交番のすぐ近く……現場は，一階に中華料理店の入ったビルの前だったらしい。そこから少し先へ行くとガード下になっており……>という文章で，西口の光景がまざまざと浮かんできます。他にもたくさん出てくるので，きっと思い当たる場所が出てくるのでは？ とは言っても，珈琲貴族はなくなり，浦和駅西口も大きく様変わりしました。この小説は2014年の出版，——10年ほど前なのに街の変わり身の早さにはびっくりです。

連載

埼玉の方言

続・母と方言と

前回，“ゴメラの謎”について書いたところ、ありがたいことに早速「茨城でもゴメラを使う」という情報をいただいた。母はテレビのブラウンカンをドラムカンと言うような人だったので、かなり疑っていたところだったのだ。

また「朝茶はその日の難のがれ」、「亀の甲より年の効」、「義理と禪ははずせない」などのことわざもしばしば使った。とくに好きだったのが親のありがたみを説くもので、例えば「親の小言と茄子の花は万に一つの無駄も無い」「親の意見と冷酒は後で効く」「孝行したいときに親はなし」のようなものだ。耳にたこができるほど聞かされれば、こちらも適当に受け流すようになる。すると「親の言うことをロクスッポ（ろくに）聞かない」とか、「ソソラソッペ（いいかげん）に聞いて」とか、方言付きの小言が返ってくるのだった。

夏休みに母の実家へ行ったときや、母の友人が訪ねてきたときなど、会話は埼玉弁満載だ。そういう場で覚えたのが「ノメッコイ」と「コソツパイ」、一一人間関係や人柄について「うまくいく」「うまくいかない」のようなニュアンスで使うのだが、「のめっこい」はいかにもなめらかで順調、「こそっぱい」には気まずい感じが漂う。標準語に翻訳しがたい絶妙な言葉だと思っている。

「キヤッセ（来なさい）」「イカッセ（行きなさい）」「ミヤッセ（見なさい）」も、私の中では“埼玉度”の高い言葉だ。母の実家は農業のかたわら食料品や雑貨などを売っていたので、お客さんが「売らっせ～」と言って店に入ってくるのをよく聞いたものである。また、左官屋さんのことを大人たちが「シャガンヤ」と発音していたのも懐かしい。

今では埼玉弁に包まれて育ったのをありがたいと思っているが、認知度の低い方言なのでいつの間にか消えてしまうのではないかと危惧している。アイヌ語のように「消滅の危機にある言語・方言」に認定されてはいないが、私の中で埼玉弁は充分に“消滅危機方言”なのだ。（記 並木せつ子）



格子のフレーム

キッチンカー

コロナで仕事が停滞していた頃、何も作業できるものがないことがもどかしくて、キッチンカーや車中泊の小屋などに使える軽トラの荷台に載せる箱を考えたりしていました。ネットなどでも多くの人が自己流で材料を組み合わせて作っているのを楽しく観ていたものです。一方で、自分ならこうするのにと色々思う中で、幼い頃に遊んでいた模型のことを考えていました。

嵌合

幼い頃、小遣いが貯まると買っていたものの一つが、ベニヤの恐竜の骨格模型です。ノートほどの大きさの箱に入れられた2、3枚の板には隙間なく切れ込みが入っていて、注意深く切り離すと骨のパーツになるようになっていました。部品それぞれには嵌合するためのスリットが彫られていて、説明書もあったかもしれませんが、ほとんど直感的に組み立てられるような作りでした。ただの板が自立する恐竜に生まれ変わる様子は、いくつもの種類を作っても飽きることがありません。遊んだ後の抜き型も美しく、捨てることができずに何度も眺めていました。

材木屋さんからの相談とワークショップ

やどかりの里でキッチンカーを作ることになりました。ちょうど同じ頃、親しくしている熊谷の材木屋さんが合板を掘る機械を導入し、活用法を検討していると相談いただいていた。それならばと、嵌合で組むことができるキッチンカーのフレーム作りに協力してもらったのです。刻んでもらった板は、模型を使った組み立てのシミュレーションと機械による正確な彫刻によって簡単に組み立てできるものになっており、喫茶ルポーズから大勢の仲間が参加してくれたおかげもあって、短時間で人が入れるような空間を組み立てることができました。

いくつか想定外なこともありましたが、それぞれが組み立てに関わった時間を感じつつ、格子のフレームは完成しました。



とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。（写真 新 良太）





未来を拓く

つなぐ・つくるプロジェクト・12



モバイル屋台「リヤカーゴ」を製作 旅するお茶の間で活躍中！

大宮八幡中学校で地域巡回を開催

地域巡回「旅するお茶の間」も回数を重ね、2022年10月には初めて学校と協力して、大宮八幡中学校での開催となりました。さいたま市の公立学校では各校に学校運営協議会を設置し、学校・保護者・地域が協働して“地域とともにある学校づくり”を目指し活動しています。大宮八幡中学校でも“社会に開かれた魅力ある学校づくり”を目指し、自治会活動への参加や認知症サポーターキャラバンの実施などを進めています。特に、学校と地域の諸団体をつなぐ要として学校地域連携コーディネーターが活躍され、コーディネーターの方からプロジェクトにお声かけいただき、中学校での初めての地域巡回となりました。

当日は全校生徒が参加する合唱コンクールの機会を活用し、来場する保護者の方々に立ち寄っていただけるよう、校門入り口の広場をお借りして実施しました。チラシを見て、不要になったPC、DVD、エコキャップなどを持参してくださる方も多く、引き取り箱が山盛りになるほどでした。製作したてのリヤカーゴでは、まちなか保健室やみぬま電力コーナーを設け、アプリを活用してこころの健康チェックをしたり、ミニ太陽光発電システムの説明を聞くなど、



中学校での地域巡回

思い思いに過ごされていました。また、今回から2頭のヤギ、喜々と楽々のポストカードの販売を開始。地域巡回を重ねて喜々と楽々のファンも増え、その魅力を発信しようこれからも新たなグッズを製作する予定です。



大工さんからの説明を聞く参加者



リヤカーゴ製作中

モバイル屋台「リヤカーゴ」が完成！

地域巡回に欠かせない道具のひとつが「リヤカーゴ」です。次世代型リヤカーとも言われ、場所を選ばず手軽に移動できる機動性の高さが魅力。木材で製作するため温かみがあり、色とりどりのパラソルは人々の関心を引き寄せます。人と人とのコミュニケーションや場づくりに一役担うこと間違いなしです。

プロジェクトでは、このリヤカーゴの製作に着手することになり、参加型のワークショップを開催。昨年、試行的にリヤカーゴを1台製作し、形状を間違えうというおまけもありましたが、自分たちで作る楽しさを体感するとリヤカーゴへの愛着も湧きます。製作にあたっては、地元見沼区で50年以上、家づくり・まちづくりに実績のある山崎工務店の皆さんに全面協力いただき、木材の提供から技術指導、開催場所まですっかりお世話になりました。参加者はみな初めての作業なので不慣れな点もありましたが、大工さんに指導いただきながら作業を進め、6台のリヤカーゴが完成。木材の組み合わせも、留めネジの並びもすべてオリジナル。1台1台に作り手たちの個性が溢れ、同じものはふたつとしてありません。これからは、皆さんの暮らす地域に个性的でカラフルなりヤカーゴともにお伺いし、ドリンク片手に四方山話よもやまといった光景が日常になりそうです。



(記 三石麻友美)

まちなか保健室で看護師と

ヤギ日誌



喜々・楽々のグッズが完成！

つなぐつくるプロジェクトでは、人と人、人と自然、人と地域社会が「つながる」ことを意識しながら、自然エネルギーや地域巡回など、さまざまな切り口で取り組みを続けています。この「つながる」取り組みに大きな役割を果たしてくれているのが、2頭のヤギ「喜々と楽々」です。

喜々と楽々がつなぐ縁

喜々と楽々は、2021年4月にやどかりの里にやってきました。最初は新しい環境や慣れない人に囲まれ、びくびくしていましたが、徐々に慣れ、今では人が大好きに……。ご近所の皆さんにも普段からかわいがっていただいています。

そんな喜々と楽々といっしょに地域巡回などのイベントに参加すると、子どもたちも大人も興味津々。身近にいる犬や猫と違い、ちょっと珍しいヤギをなでたり、エサとなる草をあげたりとその周りはいつも賑やか。地域巡回には「ヤギに会いに来ました」という人たちも多く、喜々と楽々への関心が、つなぐ・つくるプロジェクトと地域の人たちをつなげてくれていることを感じます。

つなぐ・つくるプロジェクトを知ってもらうために

人気者の喜々と楽々にあやかっって、1人でも多くの人につなぐ・つくるプロジェクトを知ってほしい、つながってほしい……。そんな思いを込めて、喜々・楽々グッズを制作し、10月末から販売を開始しました。

第1弾として制作したのは、ポストカード。本紙表紙を撮影いただいている写真家・柿内未央さんにお願ひし、緑のトラスト1号地（緑区南部領辻）で喜々と楽々を撮影してもらいました。普段はやんちゃな2頭がなんだか余所行きな雰囲気です、お上品に写っています。

第2弾は、喜々と楽々のシルエットをロゴにして印刷したエコバッグ。コンビニなどでのちょっとしたお買い物に便利なコンパクトサイズで、折り畳み時にはゴムで留められます。エコバッグの活用で、プラスチック削減にもつながります。ちょっとした意識変化が、環境にやさしい暮らしへの第一歩です。このグッズを通して、つなぐ・つくるプロジェクトの輪が見沼地域に広がっていくことを願っています。

(記 宗野 文)

ご購入は、つなぐ・つくるプロジェクト事務局まで。

ポストカードはやどかりの里の各事業所でも取り扱っています⇒



●ポストカード：1枚 100円／6枚セット 500円（お得です♪）



●エコバッグ：1枚 500円／

色はカーキ，グレー，ネイビー，ブラック，レッドの5色♪

*ポストカードやエコバッグの売上は、喜々と楽々のエサ代や感染症予防のための薬代に充てさせていただきます。

未来を拓く つなぐ・つくるプロジェクト 2020 事務局

〒 337-0026 さいたま市見沼区染谷 1177-4 やどかり情報館内

TEL 070-3260-2020 FAX 048-680-1894 e-mail:tt.prj2020@gmail.com



インフォメーション

人と人のつながりで
安心安全な未来へ向けたまちづくりを



清掃スタッフ
募集中！！
応募はこちら



M. 今日も 明日も そっと。
毎日興業株式会社

〒330-0842 埼玉県さいたま市大宮区浅間町2-244-1
TEL : 0120-156365 (フリーダイヤル) <https://www.mainichikogyo.co.jp>

片柳地区社会福祉協議会

つながりを大切に活動しています



048 (686) 8601

開設時間

月曜日～金曜日

10時から16時



なんとおたく先のことかババ...
ババのこと、困りごとを
気軽に相談してませんか

最近目覚め...
もしもし...

お問合せ 見沼区障害者生活支援センターやどかり
電話 048-682-1101
火～土曜日 (祝祭日を除く) 9:00～18:00

インフォメーションコーナーの
掲載広告を募集しています！

1マス (64mm × 46mm) 5,000円

援農ボランティア募集中

やどかり農園 (無肥料・自然栽培)



さいたま市見沼区染谷1177-4
Tel 048-680-1891

◆やどかりの里職員募集

やどかりの里では、職員を募集しています。

- 非常勤 (週3日程度)
- 正職員 (新卒・中途採用)
- *要普通自動車免許

詳しくはやどかりの里法人事務局までご連絡下さい。

お問い合わせ) やどかりの里法人事務局 048 (686) 0494

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

こうぬまふくしかい

社会福祉法人 鴻沼福祉会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いちず
とうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000

FAX 048-854-3538

さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりこだわった本格とうふ。宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜいたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910

FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。(一部商品を除く)

職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。



弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。

野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつつあります。

○障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！ 問い合わせ先：048-854-6890 (担当オガワ)

鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL：048-854-6890 FAX：048-856-0313

《はたらく》●つばさ共同作業所(中央区) ●あざみ共同作業所(見沼区) ●そめや共同作業所(見沼区) ●きりしき共同作業所(中央区)

《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえでホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ

●なつめホーム(以上、中央区) ●のぞみホーム(見沼区) ●ひかりホーム(西区)

《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢 ●地域活動支援センター来夢(以上、中央区)

●見沼区障害者生活支援センター来人(見沼区)

さいたま見沼よみさんぽ

作者紹介

記録写真家 柿内未央さん(表紙写真)

<https://lit.link/kakiuchimio>

全てを知ることはいないし、
全てを見ることもできない。

いま、わたしの目の前に在る世界の^{ほか}外でも
無数の美しい瞬間があちらこちらで
同時多発的に煌めき続けている。

全てを見ることは到底叶わず
時間もあるようで無いものだけれど、
それでも このいのちある間
できる限り多くの
“うつしき愛・いのち”に
眼差しを向けていきたい。

(柿内未央)

表紙撮影地

岩槻城址公園(さいたま市岩槻区)



公益社団法人やどかりの里



やどかり出版



よみさんぽバックナンバーはこちらから
ご覧いただけます



公益社団法人やどかりの里



<https://www.yadokarinosato.org/kouhou/yomisanpo/>

さいたま見沼よみさんぽ 第44号

発行 2023年1月

編集 「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員会
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷
1177-4

Tel 048-680-1891 Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<https://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 増田一世

印刷所 やどかり印刷

公益社団法人やどかりの里は、この大宮見沼界隈で障害のある人たちとともに地域で生きることを目指して活動を続けています。私たちは長年この地域で活動し、地域の皆さんに支えていただきました。

そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました。またこの度、広く地域情報をお届けするため「さいたま見沼よみさんぽ」と改題致しました。

「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員一同